

# Youth Sailing



Japan Junior Yacht Club Union

ユースセーリング

[ジュニアヨット指導書]

No. 84

## 国際交流

## 日本ジュニアヨットクラブ競技会 2014 in 宮古 ...2



## YSクローズアップ

### 第3回ジュニアヨットクラブジャンボリー

2015 in 浜名湖 ...6

### 2014年度海外セーリング研修報告

(シンガポール、パース) ...8

## 特集／三回連載

### ジュニアヨットクラブの 指導者・コーチの皆さんへ 第1回

(一社)日本ジュニアヨットクラブ連盟 副会長 安井清 ...12



発行日／2016.10.31

発行／一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

発行人／伊藤雅宣

編集人／岸野 寛、葛西 信一

事務局／〒182-0004 東京都調布市入間町3-20-5

TEL: 03-6277-9641 FAX: 03-6277-9646

e-mail: jjyacht@jjyu.net

### 巻頭言／セーリングワールドカップ日本上陸！

(公財)日本セーリング連盟 副会長 桑原啓三 ...1

JJYU NOTICE BOARD 平成27年度連盟会長表彰、他 ...27



# 健康づくりのために 今すぐ始められること。

健康づくりのきっかけとして、気軽に受けられるKYG協会の検査サービスや教育講座をご活用ください。



食事の栄養バランスや食生活の改善点を個別にコンサルティング

## お食事栄養診断

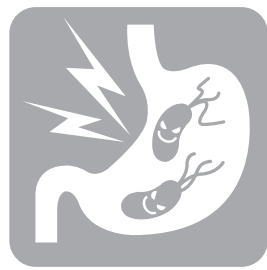
3日分の食事内容より栄養素の摂取状況などを管理栄養士が診断し、診断報告書と、栄養バランスや食生活などの改善ポイントをまとめたアドバイスシートを作成します。

【診断項目】※診断項目は予告なく変更することがあります。

- ◆エネルギー診断 BMI、エネルギー産生栄養素バランス
- ◆栄養バランス診断 脂肪酸、ビタミン、ミネラル・食塩、食物繊維摂取量
- ◆摂取品目診断 穀類、いも類、豆類、魚介類、肉類、卵類、乳類、緑黄色野菜、きのこ類、海藻類など18食品群の摂取状況

〈診断の流れ〉

- 1 食事日誌を提出  
3日分のお食事の内容を食事日誌に記入して提出してください。
- 2 栄養診断  
管理栄養士が食事の栄養バランスやエネルギーバランスなどを診断します。
- 3 診断報告書郵送  
診断報告書と、栄養バランスや食生活などの改善ポイントをまとめたアドバイスシートをお送りします。



ピロリ菌感染で胃がんリスクは5.1倍に  
検査と除菌で胃がん予防

## ピロリ菌検査キット (郵送血液検査)

検査キットを使用し、一滴の血液を採取。胃がんの原因といわれるピロリ菌感染のチェックができます。

検査項目：ヘリコバクターピロリ菌抗体検査

〈検査の流れ〉

- 1 検査のお申し込み  
申込書にご記入してFAXまたは郵送でお申し込みください。
- 2 血液検体の採取・返送  
検査キットを使用し、ご自宅で血液を採取。返信用封筒にて検体を返送してください。
- 3 検査結果報告  
検体返送後、約1週間で検査報告書をお送りします。



遺伝子を知るともっと自分のことが見えてくる

## 遺伝子診断

発ガン物質感受性／アルコール感受性／肥満体質／塩分感受性



生活習慣病を引き起こす危険因子に関する体質を遺伝子のタイプより判定します。



遺伝子栄養学の基礎を学ぶ

## KYG栄養カウンセラー 養成講座(通信教育講座)

遺伝子の仕組みや核酸の働きなど、遺伝子栄養学の基礎を学ぶ講座です。修了後はKYG栄養カウンセラーに認定されます。



体内の酸化ストレスレベルを測定

## 遺伝子酸化損傷検査



DNA酸化物「8-OHdG」を測定し、生活習慣病や老化の原因となる体内の酸化ストレスレベルを測定します。



生活習慣病の簡単セルフチェック

## 生活習慣病+糖尿病セルフチェック (郵送血液検査)



自宅で行なう郵送型の検査です。指先から一滴の血液を採取するだけで生活習慣病のセルフチェックができます。

巻頭言

日本上陸！

セーリングワールドカップ

全国のジュニアヨットクラブ指導者、保護者の皆さん、日頃の子供達へのご指導有難うございます。

世界中を感動と興奮の渦に巻き込んだリオ・デ・ジャネイロオリンピック、パラリンピックも終わり、次はいよいよ2020年Tokyoです。

セーリングは、リオでは惜しくもメダルに手が届きませんでしたが、2020年には是非とも日本の海に日の丸を掲げてもらいたいと願っています。

そしてその為には、日本の選手達が世界のトップセーラー達とできるだけ多く競い合う機会を作り選手強化につなげたい。そんな思いからJSAFではワールドセーリング（世界セーリング連盟）と交渉、2017年からセーリングワールドカップの日本開催を取りつけました。

セーリングワールドカップはオリンピックと同じ種目のランキング上位選手に参加資格が与えられ、年4戦を世界各地で開催、その年のチャンピオンを決定します。その開催地の一つに日本（2017年蒲郡、2018年～2020年江の島）が決まりました。しかも2020年には、オリンピックの直前に江の島でファイナルを行い、そのシリーズのチャンピオンを決定する予定です。その規模といい選手達の意気込みといい、おそらくオリンピックに勝るとも劣らない真剣勝負を見せてくれる事でしょう。

そして子供達にとっては、世界のトップセーラーの走りを眼の前で見ることの出来る絶好の機会です。セーリングワールドカップやオリンピックを通して、子供達の夢が膨らみ、更に大きく羽ばたいてくれる事を願っています。



公益財団法人  
日本セーリング連盟  
副会長 桑原啓三

資料請求・  
お問い合わせは

KYG協会まで

TEL.03-3400-3601〔平日9:00～18:00〕

特定非営利活動法人 KYG協会  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-6-6 ライフサイエンスビル9F



# 国際交流日本ジュニア ヨットクラブ競技会 2015

2015年7月31日～8月2日

岩手県

リアスハーバー宮古

信じよう。スポーツの力を。



© 2015 YS Photo Report by 編集委員会

夏真っ盛りの7月31日～8月2日、都会の喧騒や蒸し暑さからは無縁の三陸宮古にて、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2015を開催しました。3・11からまだ4年数ヶ月にもかかわらず、リアスハーバー宮古は再建され、宮古市のあちこちでは復興の槌音が賑やかで、生まれ変わりつつある姿に感銘を受けました。

競技会には海外から招待した3クラブ



山本宮古市長のご挨拶



JYU石原会長挨拶

(香港、ニュージーランド、オーストラリア)と、北は北海道から南は四国まで国内16クラブ、88名の選手が参加し、好天にも恵まれ、ヨットの腕を競いました。

開会式には石原伸晃JYU会長、共同主催者の山本正徳宮古市長がご出席され、ご挨拶をいただきました。それに続く国際交流会は、引き続きハーバー横の野外で行い、NPO法人いわてマリフィールド会員ら多くのボランティアスタッフによる手作りバーベキュー、海外チームとの記念品交換、各クラブの自

選手宣誓



山中湖宣言



己紹介、災害支援ボランティア団体宮北会による花火大会、キッズダンスコンテストなど盛りだくさんなプログラムで、大いに国際交流を深めてくれました。

レースは宮古湾の特徴である午前中の無風状態に悩まされましたが、時間が経つにつれ風が安定し、予定されたレースの大半を実施することができました。遊漁船が混み合い決して広い海面ではありませんが、とても美しい海と風景に囲まれてレースができ、選手たちも喜んでくれたのではと思っています。



OP級上級者レースのスタート

本競技会は独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受けて毎年開催しております。開催にご尽力頂いた岩手県、宮古市や協賛各団体及び企業各社の方々、及びボランティアで支えて頂いた宮古ジュニアセーリングクラブのお母さま方をはじめNPO法人いわてマリフィールドの皆様のご努力に深く御礼申し上げます。



オーストラリアのMcAulley選手



レーザー4.7レースのスタート



OP級上級者のレース

OP級初級者の競技説明会



選手入場



来賓の皆さま



海外チームコーチに佐藤副会長から記念品贈呈



ニュージーランドチームとの記念品交換



キッズダンスコンテスト



オーストラリアチームとの記念品交換



香港チームとの記念品交換



ボランティアスタッフによる手作りバーベキュー



DJ WASEI CHIKADA さん



花火の準備  
入念な作業です



花火大会



国際420級、FJ級レースのスタート



OP級初級者のレース



OP級初級者のスタート



小澤吉太郎特別賞の  
藤田健太郎選手



文部科学大臣賞の  
須河内選手

国土交通大臣賞の  
勝部選手



岩手県知事賞の御厨選手

宮古市長賞  
(国際420級)の  
加藤選手、向口選手



宮古市長賞 (FJ級)の  
村上選手、佐々木選手



海外チーム指導者  
代表挨拶





文部科学大臣杯・国土交通大臣杯  
国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2015

実施報告

実行委員会委員長  
一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟  
理事 塩野崎 英二



はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2015は東日本大震災から5年目を迎えた岩手県の宮古の海で開催されました。日本各地と外国から集まった参加者たちに被災地の復興の現状や元気なジュニアセーラーの活躍する姿を見て頂き、更なる復興の一助となることを期しての実施でした。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルレースです。海外から招待した3クラブ(香港、ニュージーランド、オーストラリア)と北は北海道から南は四国まで国内16クラブが参加しました。

トライアルレース

参加88選手中、67名の選手が練習を兼ねてトライアルレースに参加しました。また運営役員もA・B海面それぞれで運営体制の確認を行い、本レースに備えました。

開会式

4年前の東日本大震災による津波で大きな被害を受けたとは思えない、再建されたリアスハーバー宮古の本部棟前において開会式が取り行われました。競技会開会宣言、国旗掲揚、競技会会長の石原伸晃 JJYU 会長の競技会会長挨拶に続き、共同主催者として山本正徳宮古市長より歓迎のお言葉を頂戴致しました。続いて少年ヨット憲章「山中湖宣言」を石原伸晃会長立会いの下に宮古ジュニアセーリングクラブの5名、選手宣誓を宮古ジュニアセーリングクラブの3名の選手たちが力強い言葉で表現してくれました。

国際交流会

国際交流会は、開会式と同じ場所で行われました。宮古ジュニアセーリングクラブの保護者をはじめ、NPO 法人いわてマリンフィールド会員ら多くのボランティアスタッフによる手作りバーベキューを楽しみながら、海外チームとの記念品交換、各クラブの自己紹介などごやかに繰り広げられました。また参加賞として株式会社三洋販売ご提供の二色ボールペンが選手全員に配られました。

アトラクションは宮北会（埼玉と岩手を結ぶ災害支援ボランティア団体で、震災後ずっと宮古ジュニアセーリングクラブ等を支援して頂い

ています）による花火大会が行われました。市販の花火を使用して演出されたもので、音楽に合わせて打ち上げられた花火は夏の夜空を鮮やかに彩りました。また同会メンバーで日本のトップDJのひとりワセイ・チカダさんによるキッズダンスコンテストも行われ、日本チームから海外チームまで楽しいダンスを披露し、今までにない華やかで国際交流が出来た素晴らしい前夜祭となりました。

A 海面のレース状況

初日は宮古湾の特徴である午前中の無風状態が続き、9時に出艇は許可したものの、海上での風待ちとなりました。その後北東の風3'4m/sが吹き出したことから国際420級、FJ級第1レースの11:40 スタートを皮切りに順次レーザー 4.7、OP 級上級者をスタートさせました。各クラス2レースを実施し、その後再び無風状態となり、風の吹き出しも期待されないことから順次各クラスをハーバーに返し昼食としました。午後は時間とともに風速が増し、風向40° 風速7 m/sとなりました。この状況で、国際420級、FJ 級、レーザー 4.7及びOP 級上級者のレースを続けました。これにより初日は国際420 級、FJ 級、レーザー 4.7は5レース、OP 級上級者は4レースを実施することができ、16:30に終了しました。

翌日8月2日も朝は無風状態でしたが、9時に出艇。国際420 級、FJ 級及びレーザー 4.7の第6レース、OP 級上級者級の第5レースを実施しました。その後風向20° 風速7.5 m/sに安定したことから国際420 級、FJ 級及びレーザー 4.7の第7レース、OP 級上級者の第6レースを実施しました。

遊漁船が込み合う狭いレース海面で、風向・風速の定まらない時間を含んでのレースとなり、選手の皆さんには苦勞をかけたことと思いますが、両日とも時間の経過とともに風向・風速共に安定してきて、予定されたレースの大半を実施できました。

B 海面のレース状況

今回のOP 級初級者クラスは16名のエントリーでした。10艇のチャーターを使った乗り回し方式とし、予選と決勝に分けてレースを行います。8月1日の予選では、9時に出艇したものの同じ風向が5分と続かず振れまわり、日差しも強いことから、艇のみを海上に留め選手を陸上で待機をさせました。陸上にて早めの昼

食を取った後、70°、3 m/sの風で12:33に第1レースがスタートしました。予選は同じ組合せで2レースずつを行い、4レースで1クールが終了する方式で行いました。第3、第4レースでは、7'8 m/sまで風速が上がり、一時レースの中止も検討しましたが、運営スタッフのサポートにより、合計8レース・2クールを実施することができました。

8月2日のレース海面は、予想に反して、朝から30°、3'4 m/sの風があり、第1レースを9:55にスタートしました。決勝戦は予選9位～16位の選手8名が先ず2レースを行いました。その成績により11位～16位の順位を確定しました。最終の決勝戦は上記レースの1位、2位と予選18位の選手計10選手で行いました。風速も上がり始めたために、コースも長めに設定し直し、最終の決勝戦に相応しい素晴らしいレース展開を見せてくれました。

閉会式

3日目の競技日程も予定通り終了、エスビー食品株式会社ご提供のカレールーにクロックを乗せて作って頂いたカレーライスの昼食を楽しんだ後に、閉会式を開催しました。

松下寛レース委員長による成績発表及び表彰に続き、藤沢誠一プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。

本年から新たに設けられました小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には藤田健太郎君(三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ)が選ばれました。その後海外チーム指導者代表としてニュージーランドのスチュアート・イネスさんにご挨拶を頂き国旗降納と終了宣言で閉会式を滞りなく終える事が出来ました。

最後に

本競技会は独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受けて毎年開催しております。開催にご尽力頂いた岩手県、宮古市や協賛各団体及び企業各社の方々、及びボランティアで支えて頂いた宮古ジュニアセーリングクラブのお母さま方をはじめNPO 法人いわてマリンフィールドの皆様のご努力に改めて深く敬意と感謝を申し上げます。有難うございました。

国際交流日本ジュニアヨット競技会 2015

平成 27 年 7 月 31 日～ 8 月 2 日 リアスハーバー宮古

| OP 級初級者 参加艇数 16 艇 |         |                        |             |    |             |    |      |    |      |    |        |      |
|-------------------|---------|------------------------|-------------|----|-------------|----|------|----|------|----|--------|------|
| 氏名                | セール No. | 所属クラブ名                 | Heat1. 予選成績 |    | Heat2. 予選成績 |    | 決勝1R |    | 決勝2R |    | 決勝合計得点 | 総合順位 |
|                   |         |                        | 得点          | 順位 | 得点          | 順位 | 順位   | 得点 | 順位   | 得点 |        |      |
| 勝部 しずく            | 11      | 室蘭セーリング協会              | 7           | 2  |             |    | 1    | 1  | 1    | 1  | 2      | 1    |
| 重松 陽              | 1       | 夢の島ヨットクラブ              | 10          | 3  | 0           |    | 5    | 5  | 2    | 2  | 7      | 2    |
| 近藤 成将             | 7       | 室蘭セーリング協会              | 12          | 5  |             |    | 2    | 2  | 7    | 7  | 9      | 3    |
| 富松 志帆             | 10      | 葉山町セーリング協会             | 18          | 9  | 2           | 1  | 4    | 4  | 5    | 5  | 9      | 4    |
| 宮本 あかり            | 5       | 夢の島ヨットクラブ              | 15          | 6  |             |    | 6    | 6  | 4    | 4  | 10     | 5    |
| 浅野 蒼              | 2       | 葉山町セーリング協会             | 18          | 8  | 0           |    | 3    | 3  | 8    | 8  | 11     | 6    |
| 磯前 潮夏             | 15      | 葉山町セーリング協会             | 6           | 1  |             |    | 9    | 9  | 3    | 3  | 12     | 7    |
| 尾崎 健人             | 6       | 葉山町セーリング協会             | 12          | 4  |             |    | 8    | 8  | 6    | 6  | 14     | 8    |
| 平野 千愛             | 12      | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 16          | 7  |             |    | 7    | 7  | 10   | 10 | 17     | 9    |
| 増本 拓              | 9       | 藤沢市青少年セーリングクラブ         | 23          | 11 | 4           | 2  | 10   | 10 | 9    | 9  | 19     | 10   |
| 川北 百華             | 16      | 三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ | 23          | 12 | 7           | 3  |      |    |      |    |        | 11   |
| 田村 泰士             | 4       | 室蘭セーリング協会              | 19          | 10 | 7           | 4  |      |    |      |    |        | 12   |
| 青藤 零              | 3       | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 29          | 14 | 11          | 5  |      |    |      |    |        | 13   |
| 沼崎 友風             | 14      | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 33          | 16 | 12          | 6  |      |    |      |    |        | 14   |
| 菅野 こころ            | 13      | 夢の島ヨットクラブ              | 30          | 15 | 13          | 7  |      |    |      |    |        | 15   |
| 八木 さくら            | 8       | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 27          | 13 | 18          | 8  |      |    |      |    |        | 16   |

| OP 級初級者 参加艇数 16 艇 |         |                        |    |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |      |      |
|-------------------|---------|------------------------|----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|------|------|
| 氏名                | セール No. | 所属クラブ名                 | 1R |    | 2R  |    | 3R  |    | 4R  |    | 5R  |    | 6R  |    | 合計得点 | 総合順位 |
|                   |         |                        | 順位 | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 |      |      |
| 須河内 陽夏            | 3057    | 藤沢市青少年セーリングクラブ         | 6  | 6  | 4   | 4  | 5   | 5  | 2   | 2  | 2   | 2  | 2   | 2  | 21   | 1    |
| 重松 駿              | 3176    | 夢の島ヨットクラブ              | 1  | 1  | 1   | 1  | 1   | 1  | 1   | 1  | 3   | 3  | 19  | 19 | 26   | 2    |
| Blake McGlashan   | 4490    | New Zealand ニュージーランド   | 7  | 7  | 10  | 10 | 2   | 2  | 12  | 12 | 9   | 9  | 5   | 5  | 45   | 3    |
| Pei Tsun Yi       | HKG305  | Hong Kong 香港           | 3  | 3  | 3   | 3  | 16  | 16 | 14  | 14 | 4   | 4  | 8   | 8  | 48   | 4    |
| Burty Meffan      | 4468    | New Zealand ニュージーランド   | 4  | 4  | 12  | 12 | 6   | 6  | 10  | 10 | 18  | 18 | 1   | 1  | 51   | 5    |
| 岡田 貞良             | 2943    | 藤沢市青少年セーリングクラブ         | 12 | 12 | 13  | 13 | 12  | 12 | 3   | 3  | 7   | 7  | 4   | 4  | 51   | 6    |
| 金子 道之介            | 3305    | 葉山町セーリング協会             | 8  | 8  | 20  | 20 | 7   | 7  | 5   | 5  | 1   | 1  | 12  | 12 | 53   | 7    |
| Lawson McAullay   | AUS560  | Australia オーストラリア      | 9  | 9  | 2   | 2  | 3   | 3  | 23  | 23 | 11  | 11 | 7   | 7  | 55   | 8    |
| 宇田川 涼太郎           | 3112    | 横浜ジュニアヨットクラブ           | 2  | 2  | 5   | 5  | 4   | 4  | 8   | 8  | OCS | 35 | 3   | 3  | 57   | 9    |
| 及川 慧悟             | 3319    | 松島・名取ジュニアヨットクラブ        | 11 | 11 | 9   | 9  | 11  | 11 | 19  | 19 | 6   | 6  | 9   | 9  | 65   | 10   |
| William McAullay  | AUS723  | Australia オーストラリア      | 10 | 10 | 16  | 16 | 8   | 8  | 21  | 21 | 5   | 5  | 6   | 6  | 66   | 11   |
| Pasu Chu K C      | HKG309  | Hong Kong 香港           | 5  | 5  | 11  | 11 | 15  | 15 | 6   | 6  | 13  | 13 | 18  | 18 | 68   | 12   |
| 須永 笑顔             | 3181    | Y MFSジュニアヨットスクール葉山     | 15 | 15 | 7   | 7  | 10  | 10 | 15  | 15 | 15  | 15 | 11  | 11 | 73   | 13   |
| 増本 晴              | 2614    | 藤沢市青少年セーリングクラブ         | 17 | 17 | 22  | 22 | 14  | 14 | 7   | 7  | 8   | 8  | 15  | 15 | 83   | 14   |
| 菅野 響              | 3184    | 夢の島ヨットクラブ              | 21 | 21 | 6   | 6  | 20  | 20 | 9   | 9  | 14  | 14 | 14  | 14 | 84   | 15   |
| 青山 知央             | 3304    | 葉山町セーリング協会             | 16 | 16 | 14  | 14 | 9   | 9  | 13  | 13 | 17  | 17 | 16  | 16 | 85   | 16   |
| 大澤 雄帆             | 2892    | 葉山町セーリング協会             | 14 | 14 | 23  | 23 | 13  | 13 | 17  | 17 | 10  | 10 | 17  | 17 | 94   | 17   |
| 三浦 帆香             | 3155    | 千葉ヨットビルダーズクラブジュニア      | 13 | 13 | 17  | 17 | RET | 35 | 4   | 4  | 16  | 16 | 10  | 10 | 95   | 18   |
| 笹本 一輝             | 3       | 室蘭セーリング協会              | 19 | 19 | 15  | 15 | 18  | 18 | 11  | 11 | 12  | 12 | 20  | 20 | 95   | 19   |
| 森本 雄樹             | 3306    | 葉山町セーリング協会             | 20 | 20 | 8   | 8  | 23  | 23 | 16  | 16 | 21  | 21 | 24  | 24 | 112  | 20   |
| 葉山 カトル            | 3117    | 横浜ジュニアヨットクラブ           | 18 | 18 | 25  | 25 | 19  | 19 | 20  | 20 | 19  | 19 | 21  | 21 | 122  | 21   |
| 角田 一暎             | 2707    | 浅虫ジュニアヨットクラブ           | 24 | 24 | 18  | 18 | 17  | 17 | 24  | 24 | OCS | 35 | 13  | 13 | 131  | 22   |
| 庄子 実桜             | 3261    | 松島・名取ジュニアヨットクラブ        | 23 | 23 | 27  | 27 | 21  | 21 | 18  | 18 | 20  | 20 | 22  | 22 | 131  | 23   |
| 後藤 凜子             | 2893    | 葉山町セーリング協会             | 22 | 22 | 24  | 24 | 24  | 24 | 22  | 22 | 22  | 22 | 26  | 26 | 140  | 24   |
| 藤田 健太郎            | 2304    | 三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ | 31 | 31 | 21  | 21 | 26  | 26 | 26  | 26 | 23  | 23 | 25  | 25 | 152  | 25   |
| 沼崎 克海             | 3264    | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 26 | 26 | 29  | 29 | 25  | 25 | 29  | 29 | 25  | 25 | 28  | 28 | 162  | 26   |
| 中村 怜              | 2268    | 浅虫ジュニアヨットクラブ           | 28 | 28 | 28  | 28 | 22  | 22 | 28  | 28 | OCS | 35 | 23  | 23 | 164  | 27   |
| Sean Ian Liu      | HKG311  | Hong Kong 香港           | 25 | 25 | 19  | 19 | 28  | 28 | DNF | 35 | 26  | 26 | DNF | 35 | 168  | 28   |
| 岩花 岳              | 3265    | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 27 | 27 | 26  | 26 | 27  | 27 | 25  | 25 | DNF | 35 | DNC | 35 | 175  | 29   |
| 八木 吉奈             | 3031    | 松島・名取ジュニアヨットクラブ        | 29 | 29 | DNF | 35 | 30  | 30 | 30  | 30 | 24  | 24 | 30  | 30 | 178  | 30   |
| 岩花 嶺              | 3263    | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 32 | 32 | 32  | 32 | 29  | 29 | 27  | 27 | 29  | 29 | 29  | 29 | 178  | 31   |
| 松岡 美波             | 316     | いわきジュニアヨットクラブ          | 30 | 30 | 30  | 30 | 33  | 33 | 31  | 31 | 30  | 30 | 31  | 31 | 185  | 32   |
| 山下 和磨             | 3266    | 宮古ジュニアヨットセーリングクラブ      | 33 | 33 | DNF | 35 | 32  | 32 | 32  | 32 | 27  | 27 | 27  | 27 | 186  | 33   |
| 長谷川 啓吾            | 2235    | 鳥取県ジュニアヨット協会           | 34 | 34 | 31  | 31 | 31  | 31 | DNF | 35 | 28  | 28 | DNF | 35 | 194  | 34   |

| レーザー 4.7 参加艇数 7 艇 |         |                      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-------------------|---------|----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 氏名                | セール No. | 所属クラブ名               | 1R |    | 2R |    | 3R |    | 4R |    | 5R |    | 6R |    | 7R |    |
|                   |         |                      | 順位 | 得点 | 順位 | 得点 | 順位 | 得点 | 順位 | 得点 | 順位 | 得点 | 順位 | 得点 | 順位 | 得点 |
| Ethan McAullay    | 148644  | Australia オーストラリア    | 3  | 3  | 2  | 2  | 1  | 1  | 1  | 1  | 2  | 2  | 6  | 6  | 1  | 1  |
| 御膳 夏真             | 143011  | B&G 高松海洋クラブ          | 5  | 5  | 1  | 1  | 4  | 4  | 2  | 2  | 1  | 1  | 1  | 1  | 5  | 5  |
| Matthew Wylie     | 195542  | New Zealand ニュージーランド | 1  | 1  | 3  | 3  | 2  | 2  | 3  | 3  | 3  | 3  | 5  | 5  | 3  | 3  |
| 小屋 咲美里            | 173423  | Y MFSジュニアヨットスクール葉山   | 4  | 4  | 6  | 6  | 3  | 3  | 4  | 4  | 6  | 6  | 2  | 2  | 2  | 2  |
| 熊谷 亮              | 201483  | Y MFSジュニアヨットスクール葉山   | 6  | 6  | 4  | 4  | 5  | 5  | 5  | 5  | 4  | 4  | 4  | 4  | 4  | 26 |
| 八木 重都             | 122729  | 松島・名取ジュニアヨットクラブ      | 2  | 2  | 5  | 5  | 7  | 7  | 6  | 6  | 5  | 5  | 3  | 3  | 7  | 28 |
| 平賀 健介             | 93156   | いわきジュニアヨットクラブ        | 7  | 7  | 7  | 7  | 6  | 6  | 7  | 7  | 7  | 7  | 7  | 7  | 6  | 40 |

| 国際 420 級      参加艇数   11 艇 |            |            |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |      |      |
|---------------------------|------------|------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|------|------|
| 氏名                        | セール<br>No. | 所属クラブ名     | 1R  |    | 2R  |    | 3R  |    | 4R  |    | 5R  |    | 6R  |    | 7R  |    | 合計得点 | 総合順位 |
|                           |            |            | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 | 順位  | 得点 |      |      |
| 加藤 卓・向口 瑠装                | 55221      | 宮古商業ヨット部   | 2   | 2  | 2   | 2  | 1   | 1  | 1   | 1  | 3   | 3  | 2   | 2  | 1   | 1  | 9    | 1    |
| 佐香 将太・長澤 慶                | 55580      | 宮古高校ヨット部   | 1   | 1  | 1   | 1  | 6   | 6  | 3   | 3  | 2   | 2  | 4   | 4  | 3   | 3  | 14   | 2    |
| 佐々木 香波・木村 若葉              | 55741      | 宮古商業ヨット部   | 5   | 5  | 4   | 4  | 5   | 5  | 5   | 5  | 1   | 1  | 1   | 1  | 5   | 5  | 21   | 3    |
| 島田 陽平・小笠原 魁               | 55581      | 宮古高校ヨット部   | 4   | 4  | 3   | 3  | 4   | 4  | 6   | 6  | 5   | 5  | 3   | 3  | 4   | 4  | 23   | 4    |
| 中嶋 俊・佐々木 啓                | 55749      | 宮古高校ヨット部   | 3   | 3  | 9   | 9  | 2   | 2  | 2   | 2  | 4   | 4  | 6   | 6  | DSQ | 12 | 26   | 5    |
| 佐々木 あずさ・佐々木 歩美            | 55579      | 宮古商業ヨット部   | 7   | 7  | 5   | 5  | 3   | 3  | 4   | 4  | 6   | 6  | OCS | 12 | 2   | 2  | 27   | 6    |
| 林 玄・横村 麟之介                | 53840      | 葉山町セーリング協会 | 6   | 6  | 7   | 7  | 7   | 7  | 7   | 7  | 8   | 8  | OCS | 12 | 8   | 8  | 43   | 7    |
| 小名 歩美・小笠原 彩乃・田中 真琴        | 55746      | 宮古商業ヨット部   | 8   | 8  | 6   | 6  | 9   | 9  | 9   | 9  | 9   | 9  | 7   | 7  | 7   | 7  | 46   | 8    |
| 青山 海雅・上田 直樹               | 55543      | 葉山町セーリング協会 | 9   | 9  | 8   | 8  | 8   | 8  | 8   | 8  | 7   | 7  | OCS | 12 | 6   | 6  | 46   | 9    |
| 前川 優香・工藤 紗弥・門間 湖菜美        | 55742      | 宮古商業ヨット部   | 10  | 10 | 10  | 10 | 10  | 10 | 10  | 10 | 10  | 10 | 5   | 5  | 9   | 9  | 54   | 10   |
| 田中 真琴・平沼 里穂子              | 55745      | 宮古商業ヨット部   | DNC | 12 | DNC | 12 | DNC | 12 | DNC | 12 | DNC | 12 | DNC | 12 | DNC | 12 | 72   | 11   |



### 第3回

# ジュニアヨットクラブジャンボリー 2015

実行委員長 一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟委員 山下 弘雄



静岡県浜名湖畔にある  
静岡県立三ヶ日青年の家



神谷コーチ



堤コーチ



神谷コーチ



菅野コーチ

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟 (以下 JJYU と云う) は、ジュニアセーラーを抱える全国のジュニアクラブの普及活動の一環として毎年「ジュニアヨットクラブジャンボリー」を実施しています。2015年5月3日～5日に浜名湖畔にある静岡県立三ヶ日青年の家において三回目を合同合宿、合同練習会形式で開催しました。

テーマは

- ① 水辺スポーツに親しみ、楽しむ
- ② 若手コーチ指導による競技力向上を図る
- ③ 時間を守り、皆で準備と後片づけを行ない、挨拶をきちんと行う
- ④ 遠方や艇を運べないクラブに対して新たに乗り回し艇を準備して気軽にヨットに乗ってもらい、以上の4点としました。

会場の三ヶ日青年の家は、水辺のスポーツを楽しめるカヌー、スタンドアップパドルボート (SUP)、6～8人乗りカッター、多種ヨットが充実しているほか、ゴムボート、モーターボートのサポート艇が完備されており、会場としては理想的な施設です。そして最大の魅力は、無風や微風が予想されても、セーリングに適した風力になれば直ぐ練習を開始出来ることと、初級者でもセーリング出来る防波堤で囲まれたハーバーがあるため色々な遊び方が出来る場所であることです。

今回のジャンボリーには、首都圏や中部地方を中心に、遠くは鳥根県から合計10クラブ、選手39名、指導者・保護者・役員・コーチを合わせると総勢78名が集合しました。

また、ヤングコーチとして神谷花実さん (静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアヨットクラブ出身)、堤ひなたさん (藤沢市青少年セーリングクラブ出身)、神谷仁さん (静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアヨットクラブ出身)、川戸仁さん (三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ)、菅野輝郎さん (夢の島ヨットクラブ) が子供たちの指導にあたってくださいました。



中級クラス以上は湖上でのトレーニング

#### ■5月3日 (日) 第1日目

ジャンボリー 初日は晴天、午前11時より開校式、入所式及びオリエンテーションを行いました。オリエンテーションでは青年の家のスタッフから、研修センターの利用方法について説明がありました。大事なことは「三ヶ日青年の家」は研修センターであり、ホテルや旅館とは違うということです。トイレや部屋のスリッパは使ったら綺麗に並べる事。食事後は綺麗にテーブルを拭く等当たり前のことをきちんと行う事など、団体生活での注意を受けました。

昼食を取った後に早速練習開始。選手は上級、中級、初級、レーザー級、乗り回し班の5班に分けられ、指導者も分担して練習に臨みました。午後5時30分からの「夕べのつどい」では、三ヶ日青年の家を利用している各団体の紹介と、お互いの交流を深めるためのゲームが行われ、皆が打ち解けることができました。

午後6時夕食、午後6時30分から入浴、その後選手は5班に分かれ今日の練習の反省を中心にミーティングを行いました。そして午後10時30分に消灯し初日を終了しました。

#### ■5月4日 (月) 第2日目

天気予報通りの小雨のなか午前7時10分からの「朝のつどい」に全員集合。各団体の子どもによるスピーチと全員でのラジオ体操のあと、青年の家スタッフのリードで大声をあげながらゲーム遊びをしました。その後午前7時40分より朝食、各テーブルとも汚したら雑巾で掃除をするというルールをしっかりと守っていました。

午前中は予報通り、無風状態でしたので、ハーバー内で全員参加のSUP (サップ)、カヌー遊び。笑い声が飛び交い大興奮でした。その後はお待ちかねの潮干狩り。岸から10m以上沖に出て、首まで水に浸かった子供たちの奮闘で山盛りのアサリが取れました。昼食は、保護者の皆さんが食堂から食事を選び、出会いの広場のテーブルで楽しくいただきました。

午後になると段々風力が上がって来たので、昨日と同様5班に分かれ練習を行いました。練習



川戸コーチを囲んで夜のミーティング



山下委員のウクレレに合わせて  
「ジュニアヨットの歌」を練習

後は、JJYU 井上理事の作ったおいしい野菜スープがふるまわれ、冷えた身体をあたためることができました。

夜はキャンプファイヤーの予定でしたが、雨が益々強くなり中止しました。代わりに「ジュニアヨットの歌」の練習を行いました。山下委員のウクレレに合わせて、子供たちはみな大声で歌っていました。

その後は昨日に続き各班のミーティングが行われました。上級チームでの神谷仁さんが中心になり解説をし、夢の島ヨットクラブの父兄コーチを務める菅野さんが全体を取りまとめるという、連携した指導ぶりには感心しました。他の班でも、若手コーチ達が自分たちの体験に基づくアドバイスをしており、子どもたちにとって非常に有意義なミーティングであったと思います。



陸上でクローズホールドの乗り方を練習 続いてボンド内でクローズホールドを反復練習 (いずれも初級クラス)



カヌーや SUP に飽きたらアサリ取りに夢中



山下委員のウクレレに合わせて  
「ジュニアヨットの歌」を練習



今日の献立は？夕食のひとつ



「朝のつどい」に全員集合

#### ■5日 (火) 第3日目、最終日

午前6時30分起床。晴天のもと、午前7時10分から出会いの広場で「朝のつどい」を行いました。最終日は風が強いなか、午前中の練習も無事に終了。JJYUの井上理事さんが昨日採ったアサリの貝汁と素麺を皆にふるまってくださいました。そして昼食を済ませるとあとは帰りの支度です。皆で協力しながら艇の積み込み作業を行いました。

そして午後2時30分より閉会式を行い、JJYU 中川常務理事のスピーチで全てのプログラムを終了致しました。最後に、参加者全員で記念写真を撮り、夏の宮古の国際交流競技会での再会を約束して解散しました。



ヨットはそっちのけでのカヌーや SUP 体験に子どもたちの歓声が響きます



最後に、参加者全員で記念写真



## 2014年●海外セーリング研修報告

# シンガポール



練習風景

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟理事 青山 義弘  
同 理事 野村 泰造

2015年3月26日から4月2日まで、2014年5月開催の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2014」の国内クラブ上位3クラブから、シンガポールでのセーリング研修に選手を派遣しました。



ホストファミリーとの顔合わせ



木の下で艀装

シンガポールでの初練習



研修直前の23日にシンガポール建国の父 リー・クアン・ユー(Lee Kuan Yew)氏をご逝去されました。国葬の日程や内容等が明らかにならない中での出発準備や日程等、多少の不安を抱えておりましたがJJYU 小野澤理事 とシンガポールセーリング連盟様と用意周到なまでの準備と今までの信頼関係で混乱なく無事に終了出来たことが今回の研修の特記すべきことであると思います。

シンガポールでは国葬が営まれる29日(日曜日)まで半旗を掲げ、国民たちは深い悲しみに包まれていました。我々もセーラーの子供達もそれぞれにホームステイ先のご家族らと共に記帳等のために設けられた会場に足を運び弔意を表させて頂きました。

セーリング研修については、27日(金)午前中はチーム日本のみで初練習、午後からは昨年もお世話になりました現地の木村卓哉さんのご尽力のお陰で地元中学生のソンマイコーチによるプログラム・アドバンスAに参加出来る事になりました。また28日(土)、29日(月)の午後からも約20艇でレース形式のプラクティスとなりました。現地の中学生と一緒に練習が出来た事は今後のヨット人生の中でも貴重な経験として有意義であったと思います。27日初日は風が弱く5m/s程度で強い潮、沖合いに停泊中の無数のタンカー、客船や上空から絶え間なく降ってくる飛行機と慣れない環境の中でのシンガポールでの初セーリングとなりました。28日のプラクティスでは最大8m/sの良いコンディションの中、上位に食い込む事が出来るようになり、流石に選ばれた日本代表選手で対応力の速さを示すことが出来ました。30日は朝から桔川兄弟も加わり8名となり午後のプラクティスに備えチーム日本のみで練習を行いました。午後からは9m/sと風速も上がりうねりもあるコンディションの中おもいっきりセーリングを楽しめたのは良い経験になったと思います。このアドバンスAにはナショナルチームのメンバー

練習風景。沖には星の数ほどのタンカーが停泊



のBクラスの選手が5名おりまだ小学生5~6年生でしたが常に上位で安定した走りをしており日本代表選手に良い刺激になったと思います。日本ではいつも上位の選手もシンガポールの海では少し勝手も違うので最初は戸惑っているようでしたが最終日はどんどん積極的にスタートで攻めたりマーク回航では上手くインに切れ込んだりしながらレースを楽しんでいました。

シンガポールのセーリングレベルの高さを目の当たりにさせられたのが、アドバンスAのソンマイコーチによるプラクティスです。14:00よりミーティング、14:30出艇、16:30帰着、17:00 ミーティングで18:00には皆家路に着くというスケジュールでスムーズに毎日行われているようでした。コーチはひとりでボートに乗り風向・風速チェック、マーク打ち、時計管理、ビデオにてセーリングチェックをこなします。レース形式のプラクティスはフィニッシュしたら即再レースで遅れるとほとんど休みはなく、風向・風速もほとんど一定でマーク移動もほとんどない為プラクティスは2時間ですが密度の濃いレースを10レース以上こなします。日本では中々やらないような練習だったのでチーム日本は少々バテ気味に見えましたが、現地の子供達が澄ました顔をしていたの対照的でした。また、プラクティス後のミーティングはビデオにて各人のセーリングをコーチがクリニックしており今回の課題として丁寧に指導しているのも印象的でした。

シンガポールではソンマイ氏のようなコーチングが出来るコーチが小・中学生を指導している



ソンマイコーチのセーリングミーティング

という事に驚きを感じました。シンガポールは選手のみならず我々指導者にも刺激を頂け、モチベーションの上が大変勉強になる研修であると言えます。

もうひとつの目的の社会勉強で29日(日)は国葬の為NSC(ナショナル・セーリング・センター)もお休みということでシンガポール動物園とリバー・サファリを満喫しました。夜はリトル・インディアで桔川さん一家と中華料理に舌つづみを打ち鋭気を養うことが出来ました。31日(火)はユニヴァーサル・スタジオ・シンガポールにて終日、1日(水)は午前中マリナー・ベイ・サンズホテル前の湾内で20fのキール・ヨットでセーリング。午後からシンガポールの名門ヨットクラブのチャンギ・ヨット・クラブにて昼食と盛り沢山の一日

## シンガポール研修への抱負

葉山町セーリング協会  
磯村 麟之介

僕は、今回のシンガポール研修で、やりたいことが1つ、出来るようになりたいことが2つあります。まず、僕がこの研修でやりたいことは、OPのレベルの高いシンガポールチームの練習に参加することで、自分のセーリング技術を向上させることです。

僕は、春から420級の艇に乗り始めます。420級は、OPよりも高い技術と体力と筋力を必要とする艇種だと思うので、今回のシンガポール研修では、技術、体力、筋力のうちの技術の部分を磨いていきたいと思っています。

次に、僕が今回の研修で出来るようになりたい



ユニバーサルスタジオシンガポールの入り口にて



帰路のチャンギ国際空港にて。前列左から、野村理事、青山理事、葉山町セーリング協会 国見有くん、磯村麟之介くん、YMFSジュニアヨットスクール葉山 山田真理歩くん、江の島ヨットクラブジュニア 青木澤さん、師尾しおりさん、YMFSジュニアヨットスクール葉山 田中美空さん

となりました。

そして最重要項目である「フレンドシップ」は1日(水)のフェアウエルパーティーにてホームステイ先のご家族の方々からの「行儀が良く、良い子だ」という子供達に対する賞賛のお言葉、「二日間でもっと長く滞在して欲しかった」という意見やたくさんの方のプレゼントなどが「フレンドシップ」成功の証ということになるのでしょう。言葉は通じなくても子供達だけが持ちうる潜在能力という力で難なく行えておりました。

最後になりましたが、シンガポールセーリング連盟General Manager Mr. (チャン・ベイ・ミン氏) Chung Pei Min, Ms. (リン・イン) Ling Yingと Ms. (ジョア) Joaの三名様の用意周到な準備のお陰で盛り沢山なプログラムがありながら、何の

ことの一つめは、シンガポールのホームステイで英語を見て、聞いて、学び、英語をある程度話せるようになりたいです。

僕は中学校に入学してから、本格的に英語の勉強を始めました。それまでは何で日本人なのに外国語の言葉を話せるようにならないといけないかと思っていたのですが、英語の授業を受けるようになってから、むしろ英語を発音良くペラペラと話せるようになった方がカッコいいと思うようになりました。外国に行くのは初めてなので、現地の方ときちんとコミュニケーションを取れるのか、一緒に生活が出来るのかと不安もありますが、英語を話せるように努力したいと思っています。

この研修で出来るようになりたいことの二つめは、他の国の料理でも残さずに食べ、行儀良くすること、人見知りをしないことです。僕は、いつも食事は出された物は全て食べるのですが、やはり

## シンガポール海外セーリング研修の抱負

YMFS ジュニアヨットスクール葉山  
田中 美空

私はこのシンガポール海外セーリング研修を通して学びたいことが3つあります。

1つ目は、海外でのセーリングの練習方法です。日本で行っている練習とは違うものがあると思うので、シンガポールのヨットチームのみなさんを見本にしながら自分の技術を上げていきたいです。そして、日本に帰国したらスクールの後輩達に

不安もなくスムーズに実行出来た事にも感謝申し上げます。研修中2日間ホームステイさせて頂いた現地の4家族の皆様にも大変お世話になりました。また、現地にお住まいの日本人で青山さんの後輩の木村卓哉さん、しおりちゃんのお母様の師尾真由美さん、桔川一家様、日本から遅れて現地入りした青木澤ちゃんのお母様と多くの皆様にサポート頂き、セーリングプラクティス、ホームステイや観光を充分に楽しむことが出来ました。本当に有難うございました。



最終日フェアウェルパーティー後にホストファミリーの方々と NSC 内で

違う国の食べ物が自分の口に合うか分からないので不安です。でも残さず食べ、どの国の料理も食べられるようになりたいです。

また、僕は普段から人見知りをしがちです。初めて会う人やあまり仲を深めていない人と話すのが、とても苦手です。このシンガポール研修を機に、このコンプレックスを克服したいと思っています。

僕は、シンガポール研修でこの三つのことを達成出来るように頑張りたいです。また、ケガや体調不良に気をつけて生活したいと思っています。

も伝えていけたらと思っています。貸していただく船も大切にして、少ない時間ではありますがみんなで楽しくセーリングしたいです。

2つ目は、英語です。学校でも多くの単語や英文を習っていますが、普段の生活ではほとんど英語を話すことがないので、シンガポール滞在中の1週間は内気にならないで積極的に英語をはなして、たくさんの人と友達になりたいです。シンガポールで使われているマレー語や中国語や違う言語も少しでも覚えて帰れたらとてもうれしいです。自分の英語力がどこまで通じるのか心配ではありますが、チャレンジしていきたいです。

3つ目は建物やデザインに興味があるので、日本とは違うデザインや迫力があるマリナー・ベイサンズホテルや小さいというわさのマーライオンなど、たくさん物を見てみたいです。将来のやくにたつと思います。

とにかく、チャンスをせっかくいただいたのでぞんぶんに楽しみたいと思います。



## 2014年●海外セーリング研修報告

# パース



ミニシリーズに出場するレーザ級級のジャバンナショナルチームメンバーと



練習後の桟橋からの飛び込みコンテスト



McAullay一家とのトワイライトクルージング



パース動物園にて



上マーク回航するパーキンス・ハナさん

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟理事  
小野澤 秀典

2015年2月4日から11日までの8日間、3つのジュニアヨットクラブから6名の子供たちを連れて、オーストラリアのパースでセーリング研修を行いました。今年は、ロイヤル・パース・ヨットクラブから特別に招待された「ロイヤル・パース・ヨットクラブ・ディンギー・ミニシリーズ2015」(西豪州選手権と位置づけられるビッグレース)への参加がメインでしたが、ホームステイやオフのエクササイズもみんなエンジョイしていました。

6名全員が感想文を提出してくれましたので、それをご紹介しますことで報告に代えさせていただきます。

### パースでのセーリング

葉山町セーリング協会 林玄

成田空港でパースに行くメンバーと会いました。簡単に自己紹介をして空港で写真を撮り、母とは別れました。最初はみんな緊張していたけれど最終的になかよくなれたのでよかったです。その後飛行機に乗りシガポールに朝早くについて空港でちょっと寝て、次はシガポールからパースまで。パースについたとたんとても暑くてびっくりしました。ホストファミリーの車でパースロイヤルヨットクラブに行きました。そこでお昼ごはんのサンドウィッチを食べてそれぞれのホストファミリーの家に行きました。家はとっても広く家にプールがあり、個室をあたえてくれました。夜ご飯はカレーとサラダ、アイスクリームでとてもおいしかったです。次の日は午後からロイヤルパースヨットクラブの人たちと練習しました。10メートル位ふいてスタート練習とコース練習をしました。

#### ●レース1日目

午前中は風がなく、2レース目がとても悪く、午後ばんかいしようと強く思いました。午後風が上がってくれたのでよかったです。1日目の最終レースはバンが切れてしまい上マークは1位で回ったのに最終的に5位でした。1日目のトータルは9位でした。

#### ●レース2日目

午前中も午後風がなく最初のレースがブラック旗にひっかかるなどで順位を下げ10位でした。午後から風が上がるかなと思っていましたが、上がりませんでしたので残念です。

オーストラリアのコアラはとてもかわいかったです。全てがとてもいい勉強になりました。帯同して頂いた小野澤さん藤村さん、ありがとうございます。日本でのJJYUの大会があればまた出たいです。ありがとうございました。

### ロイヤルパースヨットクラブ 海外交流プログラムに参加して

江の島ヨットクラブジュニア 藤本 諒

私は今回、海外交流プログラムに参加させていただきました。このようなプログラムは2回目だったのですが、やはり言語の違いが一番苦労しました。前回は、中学1年生だったのでそのときはコミュニケーションがとれたり会話ができましたが、やはり言葉につまったり聞き取れないこともありました。

オーストラリアの方々はとても優しく、できるだけ簡単な英語で会話をしようとしてくれたり、話題をつくってくれました。しかし、私の英語力が足りないために作ってくれた話題もすぐに終わってしまうことがよくありました。私はそれがとても悔しかったです。私はもっともっと、英語の勉強をし、自分の言いたいことがしっかりと伝えられるようになりたいと改めて思いました。

そして、私は今回レーザ4.7で大会に出場しました。

オーストラリアの選手達はとても優しくフレンドリーでした。日本人でレーザ4.7に出場しているのは私だけだったので、海上では1人でした。少し寂しいなと思っていた時、私に話しかけてくれた選手がいました。その選手はこの間まで私と同じOptimistに乗っていたようで、去年のアジア選手権大会で私を見たことがあると話してくれました。私はその話を聞いた時とても嬉しくなりました。海外に友達がいるとまだどこかで再会できた時こんなにも嬉しく思えるんだと思い、これからたくさん海外にお友達を作りたいと思いました。私は今回の海外交流プログラムで、英語を勉強することの大切さ、また海外に友達を作る意味を知ることができました。このような素晴らしい経験の場をあたえてくださった皆様に感謝したいです。本当にありがとうございました。

### Perth Reflection

Enoshima Yacht Club Junior  
Hana Zoe Perkins

A few weeks ago, 4 other optimist sailors apart from me and one laser sailor set foot on an airplane leading to Singapore. However, Singapore was not where we were actually headed. Perth was our final destination. The reason we went to Perth was not for a vacation (although it did feel like one), but because we were invited, very kindly may I add, by the Royal Perth Yacht Club to enter a regatta that they were hosting. I was filled with lots of nerves along with excitement.



レース風景

I was very excited for entering the actual race and going sightseeing on one of the days. What I was most nervous about though was the homestay.

I was nervous because I did not know what type of people I would be staying with.

When I met the actual family that I was accommodated by, I instantly relaxed because they were such kind people.

I stayed with the Martelli's. They had two children.

A son called Roberto who sailed in the optimist gold fleet and a daughter called Isabella who doesn't sail sadly.

On the first day of being in Australia, we arrived at the Royal Perth Yacht Club.

Compared to the yacht club that I sail at, which is Enoshima Yacht Club Junior, the facilities were huge and very spread out.

After that we met our homestay families, went home and settled in.

On the second day of being in Perth, we received our charter boats that we were going to be using over the weekend and set up our sails that we brought all the way from Japan.

Over the weekend, we had the regatta and overall out of 43 contestants in the optimist gold fleet, I came 13th.

I remember that there were a lot of people telling me that there were not going to be a lot of waves in Perth since we would be sailing in a lake, but the waves were what I was used to when I sail in Japan.

The wind over the weekend was very weird as it was changing a lot.

On the first day of the regatta, there was not a lot of wind at all but towards the end of the day we fitted many races in because the wind became fairly strong.

On the second day, the wind was so weak in the morning that we couldn't even fit in one race before we headed back to harbour to eat lunch.

On Monday, we had a free day so we were able to go sightseeing. In the morning we headed over to Freemantle in which we went to see the Maritime Museum.

After that we ate some delicious fish and chips (I think we ordered a bit too much though because we were not able to finish all of it).

I think Monday was one of my favourite days of being in Perth because it was a very chill day and I got to relax after the race as well as I got to spend it with friends.

Overall, I think the experience of going to Perth because of a sailing competition was an experience I will never forget because of all the wonderful people I met there and I also got to get a feel of how different Australia is from Japan.

I am very lucky to have gotten this chance and I

would like to thank everyone who was a part of making this trip enjoyable and unforgettable. I would especially like to thank my homestay family, the Royal Perth Yacht Club, the other sailors I traveled to Australia with and last but not least, Mr Onozawa.

### パース遠征についての感想文

B&G高松海洋クラブ 長谷川 真大

僕は海外に行くのは初めてでした。

パースに着いて最初に感じたことは、日本と違って夏だったのだから暑かったことです。でも空気がカラッとしていて風があったので過ごしやすかったです。

ロイヤルパースヨットクラブに着くとホームステイ先の人が待っていてくれました。

僕は,McAullayさんの家で拓斗くんと5日間過ごしました。

McAullayさんの家にはWillam(11歳), Meg(10歳)とAdam(7歳)の3人の子供がいました。

Willamはレゴブロックが好きでした。Megはとても明るくて面白い子でした。Adamはやんちゃでした。家では3人と一緒にプールで遊びました。家にプールがあるのがとてもうれしかったです。

2日目の朝、ハーバーに行く前に野生のカンガルーを見てももらいました。住宅街から離れていないところに普通にいたのでびっくりしました。

パースに行く前は、英語が通じるか、食事はどんなものを食べるか、レースでは主張できるかなど、たくさんの不安がありました。

McAullayさんの家族からたくさん話しかけてもらったり、地元の選手と川で遊んだり、走ったりして楽しく交流ができました。みんなで行ったクルージングも楽しかったです。

ホストファミリーの家での食事 やフィッシュ&チップスもおいしかったです。

練習日は、10m/sぐらい吹いて、いい練習になりました。初めて川でレースをしましたが、思ったより流れはありませんでした。

レースでは、日本と違ってマーク付近ですぐ声を出していて、みんな主張していたことが印象的でした。でも言葉がわからなかったので、スタートやマーク付近で何を言っているかわかりませんでした。レースの結果は満足できませんでした。スタートが良かったら、もっと順位が上がったと思います。

今回のパース遠征で感じたことは、もっと自分の言葉で会話できたらいいなと思いました。

これからはもっと英語を勉強します。ホストファミリーがとても優しくしてくれたので、毎日楽しかったです。

今度は日本に来てもらって日本を案内してあげたいです。

パースでの生活、レースで得た経験をこれからの生活やレースに活かしていきたいです。

ロイヤルパースヨットクラブの皆さん、ホストファミリー、引率して下さった小野澤さん、藤村さん、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

### オーギー、バンザイ!!

B&G高松海洋クラブ 藤村 勇斗

今回のオーストラリアのレース、ホームステイと体験して僕は、これからの生きる道が決まった。まず、高校は、パースに留学し、大学は、日本に帰り、大人になって、パースに別荘とクルーザーを買う。そして、毎日ワイワイガヤガヤと楽しく愉快に生きていこうと決めた。そのぐらい、ことが楽園に感じた。

最初に、ともかく残念なことは、レースで僕の得意な弱風だったにもかかわらず、思った以上の力が発揮で

きなかったことである。賞金が出ると思き、金に目がくらみ、いつも以上に力が入ったのがいけなかったかもしれない。しかし、まあ、ヨットは水ものというので、さりと流して、このへんで、ヨットのことは終わろうと思う。

ともかく、ホームステイ先のジョンさん一家は、僕にととても親切にしてくれた。言葉は、なかなかうまく通じなかったけど、僕も理解しようと頑張った。一緒に食事を作ったり、洗ひ物、洗濯も僕なりに、日頃しないことを、ここでは、率先してお手伝いをした。

同じ年ぐらいのチャーリーとは、すぐに打ち解けていつも一緒に遊んだ。カラテ道場や学校にも一緒に行った。学校に行ってみんなと遊んだり、先生とも話をしたのがとても印象に残っている。とても、オーギーの子供はフレンドリーでクレージーなところが僕と同じでとても気が合った。言葉が通じなくても、笑顔と笑い声を出せば仲間になるってことをここで学んだ。

気候も風土も人間もとても合った。ここが自分ちかと思うぐらい、なじんだような気がする。あと、一か月住んだら、ほくもオーギーになれる自信がある。なので、高松空港につくまで、自分の家のこと、お母さんのことも一ミリとして思い出すがなかった。空港に迎えに来ている姿を見て、思わず、走って逃げた。

そして、僕にとつての最大の土産は、チャーリーとのメール交換だ。帰ってからも続いている。この前は、チャーリーが興味があるというについて、カップヌードルを送った。カレー、シーフード、ふつう味、うどんを送った。これは、お世話になったお礼に秘密のギフトとして、内緒で送った。きつと喜んでくれると思う。チャーリーの家族が日本に来たいと言っているのので、僕は、うちに泊まってもらって、してもらったと同じぐらい、いやそれ以上に接していて、いろんなところに行つて、いろんなものを食べるに行きたいと思う。

僕のこれからのミッションは、もちろん! おもて、な、し。 おもてなし。

P.S 小野沢コーチへ、今回このレースに僕を選んでくれてありがとうございます。ヨットでは、不甲斐ない結果だったけれど、いろんな面で何かクラブに役に立てるよう、はくくりに努力します。

### オーストラリアのパースに遠征して

B&G高松海洋クラブ 藤村 拓斗

僕は、この一週間で得たものは、今まで生きてきた中で一番大きいものになったと思う。オーストラリアに行く前に、人からの情報で想像したり、ネットで見ていた世界をはるかに超えるものだったからだ。自然も街も素晴らしかったが、それ以上にオーストラリアの人たちは、僕が今まで出会った人たちの中で、こんなにフレンドリーで、気さくに声をかけてくれて、すぐに受け入れてくれる人たちなんだと初めて知った。これは、国民性、それともヨットをされていて心が広いからか・・・?と思ったが、僕の周りの日本人にはいないぐらいのテンションなので、国民性かと思った。やはり、オーストラリアは、移住民族なので、そうなのかと、百聞は一見にしかずという言葉が浮かんた。

ヨットの結果は、あまり話したくないぐらいの結果だった。これを機会に発展していくとして、これからの僕の伸びしろを見ていてほしい。

僕のホームステイ先は、3人の子供のいる家庭だった。ちようどステイ中に ウィリアム君が11歳の誕生日を迎えたので、オーストラリアのパースディナーパーティーに出席できていい体験ができた。楽しかった。

しかし、なんといっても、オーストラリアの自然の素晴らしさが心に残っている。家の周りのいる野生のカンガルー、緑の多さ、海の広さや海の匂い、海に沈む夕日。毎日が、僕の心に刻まれるぐらい感動の連続だった。

こんな素晴らしい体験と感動のチャンスを与えてくれた小野沢コーチに本当に心から感謝しています。ありがとうございました。

←前列左から、B&G 高松海洋クラブ 藤村勇斗くん、長谷川真大くん、葉山セーリング協会の林玄くん、B&G 高松海洋クラブ 藤村拓斗くん、江の島ヨットクラブジュニアパーキンス・ハナさん、藤本諒さん  
後列左から、Michael McAullay、息子の Harmond McAullay、RPYC の Dinghy captain の Shawn Offer、小野澤



# ジュニアヨットクラブの指導者・コーチの皆さんへ 第1回

## 1. 小澤吉太郎先生とジュニアヨット

日本に於けるセーリングヨットの先駆者であった小澤吉太郎先生は、その晩年の20年をジュニアセーラーの育成にも情熱を注がれた。先生は、実行責任者を勤められた東京オリンピック（1964）の直後より、ジュニアからの育成を力説され、未だ協会の要職の身を休日返上で江の島に運ばれ、クラブ会員の子弟を中心に直接指導を始められた。先生は毎年開催される国体の機会を捉えて、ジュニアヨットクラブの設立を呼びかけ、多くの指導者を各地に育てられ、昭和49年（1974）に日本少年ヨット連盟の創立に至った。更に10年、初代会長としてジュニアの競技会を各地で催しながら、全国に百を数えるクラブが活動を展開するまでになった。

昭和62年3月11日、先生は79年の人生を閉じられたが、佐藤文生二代会長（故人、元郵政大臣）が、小澤先生の遺訓を子供向けに要約され、同年（1987）の山中湖大会の場で、ジュニアヨット憲章（碑文）を建立された。

現在の現在の日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下、JJYU）は、この日本少年ヨット連盟を前身として、平成3年（1991）、文部省（当時）認可法人として装いを新たにしたもの。佐藤文生初代会長の没後は、現在の石原伸晃会長をお迎えしたことは皆さん御承知の通り。

以上の経緯から、JJYUの活動目標を小澤先生の指導理念の実現として、各クラブの代表始め指導者・コーチの皆さんに理解して戴くことを先ず願っておきたい。

## 2. 小澤先生の指導理念とは

小澤先生にはヨットの入門書や海洋歴史などの著作や、1960年前後の“舵”誌への大学生向け論文の寄稿も多く、これ等を読めば、先生の思想・信念などの全体像が分る。しかし現在ではこれ等は、汎ね絶版であること、更に小中学生向けの指導理念となると、整理された資料があるのか筆者は寡聞にして知らない。

しかし、小澤先生の価値観や思想が最も明確に現れるのは、講義、訓示そして座談の場であった。

先生の古今東西に亘る該博な歴史知識は、既刊の本誌（Youth sailing）に連載された青淵隆督氏の「ヨット小澤吉太郎語録」（全10話）に詳しく紹介されている。筆者が先生の聲咳に接したのは学生時代から数えるほどしかないが、それでも印象が強かったせいか、先生の思想をかなり濃密に吸収させて戴いたと思っている。

この様な場で、先生が日本のヨットマンに求めた人物像は、ウィットに富んだ英国の教養人ではなかろうか。勿論この事は先生がヨットを通じて付き合った多くのヨットマンの中に見出した資質と思われる。

先生の口からKing of sports, Gentleman, Noblesse Oblige等々、英国貴族の誇り高い気品、責任感、公正さが頻に発せられていた。流石に子供に向かって、このような社会のリーダーたる資質を求められはしなかったが、「大切な子供を預かる以上、将来は敬愛される社会人に育てくれることが自分の喜びであり、ヨットというスポーツはそのための訓練の宝庫である」と常々自負されていたのを想い出す。



（一般社団法人）  
日本ジュニアヨットクラブ連盟  
副会長 安井清

確かに「尊敬され愛される人間」であれば、それは年齢・性別・職業を問わず、立派な人物と言ってよいだろう。敬愛される人間が社会・国家に役立つことは疑いもなく、親が子に望む最も普遍的な願いであろう。小澤先生が子供達に正直・勤勉・感謝・忍耐・共助など繰り返し説かれたのも、この敬愛に結実する人格を育てるためであった。それは戦後の小中学校教育にあって知育偏重で欠けていた徳育を課外活動で補完する意図もあったと推察される。ここで大切なことは、ヨットの訓練を通じて、優秀なレーサーや生涯愛好家を第一義に考えて居られなかったことである。

以上、JJYUの活動理念の根拠について縷々述べたが、指導者諸氏が日常の現場で遭遇する多様な問題に対してこの理念から演繹して全て解が得られる訳ではない。つまり各個人でこの理念に向う手段の解釈には相当の幅が生じてくる惧れがある。

特にヨット競技には他のスポーツにない長所があるものの、子供の情操教育上好ましからざるものも幾つか内包している。小澤先生もこの点については心配され、我々下働きの者に初心者や子供への対応には特別な注意を促された。

次号では、この観点から各論に入るが、先生没後30年になろうとする今日、科学進歩と社会風潮も大きく変化しているので、テーマによっては「小澤先生ならこのように考えたであ

安井清副会長は、長年にわたりJJYUの指導委員会委員長として、指導者研修会などの講師を務めてこられました。

今回、これまでの講義内容をベースに、新たに加筆していただき、子供たちにヨットを教える指導者の皆さんへの「指導書」としてまとめました。今回より、3回に分けて連載いたします。ご期待ください。

ろう」の推察を含めて筆者なりに提言してみる事にする。

## 3. 「スポーツ」概念の変質

元来、スポーツ（Sports）の語義は、厳しい勉強や激しい労働の合間での「気晴らし」の遊びであった。労働に明け暮れていた古代人が、骨休みに寄り集まって、走ったり球を投げたり取組みあつては次の労働に備えたりフレッシュやリクリエーションの意味と云える。つまりスポーツはあくまでプレイヤーの楽しみであったから、オリンピックの提唱者であつたクーベルタン男爵も「みずから参加することに意義あり」とした。そして、スポーツの祭典であるそのオリンピックが競技者主体の本義から大きく変質したのが、昭和59年（1984）のロサンゼルス大会であつた。この大会は完全に民間の商業ベースで行われ、一挙にド派手な演出で世界を驚かせた。つまりオリンピックが出場選手主体から観客や企業、更にはメディアを通じての民衆のものに移った節目と云える。

確かにこの大会では薬物使用など不祥事も登場し、ドーピング問題へと繋がった。また日本でもこの大会を機にアマチュア規定が吹き飛んで、選手たちのCM出演が解禁となり、「アマチュア」という言葉が死語になった。この現象は単に資本主義自由経済の自然の流ればかりでなく、社会主義国が国力誇示のためアスリートに大金を投じたり、賞罰を併用するなど行き着くところは同じであつた。この大会は小澤先生が亡くなられる2年前であつたから、ヨット協会の会議で何等かの評価をされた筈であるが、残念ながら筆者には

不明である。

ところで、筆者60年前の学生時代には、スポーツ青年と云えば「勝って驕らず、負けてさばさば」の明朗快活の好青年として世間に通用していた。筆者のようにお頭（つむ）が弱くても縁談や就職では「体育会系」という下駄をはかせてもらっていたものである。そして昭和後半の会社生活の中で、それとなくみていた統計でも、克己心、闘争心、協調心を兼ね備えた体育会系出身の社員達は社内外での人間関係もよく、仕事への粘り、結果への責任感など、汎ねそれなりの地位や役割を得ていたようだ。

ところが、平成の世に移って、「体育会系有利」の定説が急に怪しくなってきた。筆者は平成10年で会社生活を終えたが、その僅かな期間での観察でも、体育会系出身の新人達が職場適応に問題を抱える情況に首をかしげる場面が増えていた。

実はその謎を分かり易く解いてくれたのは、10年ほど前に出版された「スポーツは良い子を育てるか」（永井洋一著）という新書本だった。題名から推して分かるように、「スポーツは決して良い子を育てていない」ことを、日本のスポーツの現状を題材に説いた警告書である。これと同じような主旨で出版されている書物や雑誌記事が多くなったことからみても、確かな社会現象傾向なのであろう。それでは、スポーツの世界に生じている負の側面に移って考えてみよう。

## 4. 勝利至上主義の罠

ヘミングウェイの短編集に「勝者は何も獲るな」（Winner take nothing）がある。「勝者は勝利という栄誉以外

に他人の讃美やら賞金賞品など欲しがらないものだ」であろうか。つまり古典的（？）なスポーツ精神の粋を語っている。

翻って今日、商業化したスポーツ界は企業、マスメディア、興行元の三者が共振して、勝者と敗者の取扱いに大きな格差をつけ、何も獲るな！どころか“Winner take everything”となっている。獲得するものは競技の場だけではない。それは競技人生後の職業や収入に於いても言える。オリンピックや世界選手権では国の代表になれなければ、その競技の解説者やコメンテーターは勿論、国会議員からタレントに至るまで先ず絶望的である。

つまり勝者と敗者はその後の人生の名声や収入の落差まで大きく引きずることになる。この風潮は特にトップアスリートに限ったものではなく、地域の底辺にある小学生のサッカー、野球など全てのスポーツにまで及んでいる。そしてこの勝利至上主義は、スポーツの世界を超えて、受験、就職から企業内出世競争に至るまで、勝ち組・負け組の二分思考が蔓延してきた。

競争社会にあつて勝利への執念を否定することは出来ないのは当然であるが、その動機や程度が問題になる。問題が大きくなるのは、当事者個々の意思に周囲の関係者の思惑が付加される場合で、関係者には保護者、コーチ、監督、団体組織、スポンサーなど各階層に及び、その圧力が先鋭化することである。

平成13年1月、大阪市立桜宮高校バスケットボール部主将の自殺に端を発した体罰問題は柔道女子ナショナルチームでの告発に飛び火し、更に全国大会に名を馳せるような学校



## ジュニアヨットクラブの指導者・コーチの皆さんへ 第1回

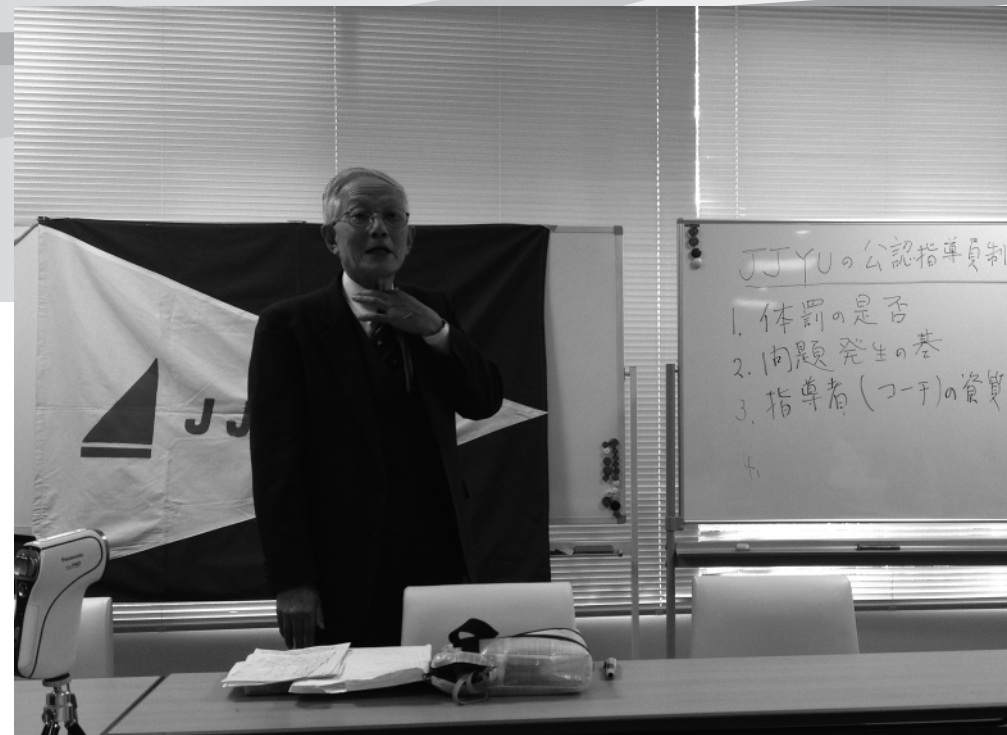
は殆んど暴力行為が日常化していることが次々と明らかになった。勝利をもたらしてくれる名監督・名コーチほど練習密度の格差から出場枠決定まで絶対的な生殺与奪権を握り、選手・保護者はもとより組織の上層部まで口を出す事が出来なくなり、その果てが暴力事件にまで連鎖してしまう。しかし自制心を失った指導者に全ての原因を押しつけられないのは、組織の上層部も保護者達も全てが、メダルや全国制覇へ向って、勝利至上主義に向って、選手を煽り立てる土壌造りに協力していることを見落してはならない。それでは、負けることがどれほど選手個人に負の価値を与えるのだろうか？「高校球児 4000 校のうち 3999 校の一敗は野球の神様から配られた貴重な一敗です」とは長嶋茂雄氏の言葉である。小学 4 年生、中学一年、高校一年の全ての第一打席が三振で、有名なプロ第一戦の金田正一投手（スワローズ）から 4 打席 4 三振の経験をもつ長嶋選手の重味のあるコメントである。スポーツに限らず、人生の節々で生ずるあらゆる競技の場で勝ち抜くことから得るものにそれ程の価値があるとは筆者には思えない。読者自身も自分の人生を振り返ってみて、負けたこと、挫折したことがどれだけ自分を鍛えたことか、或いはプラスに転じたかに気が付くのではないだろうか。むしろ思い掛けない成功や昇進を幸運でなく自分の実力としたために、友人を失ったり、墓穴を掘ったりする例こそ、保護者達は自分の子供に心配するべきであろう。『『勝つために手段を選ばず』の狡賢い子供にしてはならない』は小澤先生の口癖であった。

ヨットのみならず、子供時代のスポーツの世界では「結果が全て」ではなく「プロセスこそ全て」と考えて子供に接することを願っている。ヨットはマイナースポーツだから、企業も観衆もマスメディアも注目せず、ヨットを将来の生業とする魅力もないから、勝利至上主義を心配することはない・・・との意見もある。しかし、親善や交流を目的とした JJYU 主催の競技会にあっても、指導者、保護者、選手の別なく、過激にして執拗な自己主張に悩まされたケースが多々あったことからみて、勝利至上主義の風潮はヨット界にもあり、それがジュニアヨットにまで及んでいる。指導者・コーチの方々に注意を促したい最重要ポイントであろう。

### 5. 競技規則の取扱い

我々の社会秩序は倫理（モラル）と法律（ルール）の二重規範で保たれている。但し、モラルとルールの間には幅の広いグレイゾーンがあって、民衆の日常行動は汎ねこのグレイゾーンの中で平和が守られている。尤も人々はそれぞれの立場や価値観が異なるから、それなりのストレスを内在させながらの秩序ではあろう。政治家や企業経営者が不祥事を起こした時の会見で、「法的には違反ではない」と弁明する姿をよく目にする、ルールは決して黒か白かの物指しではなく、単に黒か灰色かの分別であろう。そして再発防止策として出てくるコンプライアンス（順法）委員会と倫理委員会では、前者の「黒か灰色か」と後者の「白か灰色か」では性質が全く異なってくる。つまりコンプラ

イアンス委員会の設置で事を済ます会社は、相変わらず刑務所の塀の上を歩いているような危ない会社を自ら表明していることかもしれない。とは申しても、この社会は倫理レベルをクリアする人格者人生を貫徹するには多くの不条理を抱えている。そしてその事は人それぞれが成長するに従って思い知る事もまた事実である。実はこの「成長するに従って」が未成熟な子供へのルール教育の鍵であり、モラルからルールへいきなりハードルを下げることの弊害に留意する必要がある。つまりルール順法は特に誉められる行為ではなく、最低限の義務と教えて欲しい。スポーツ大会の開会式での「ルールを守って正々堂々と戦います」の選手宣誓はこの意味からも妙なことになる。スポーツの世界では、記録競技や個人演技は別として、妨害、威嚇、騙し、割り込みはおろか、格闘競技では叩く、殴る、蹴る、倒すなど一般社会では明らかに犯罪となる反社会的行為が正当化される極めて特殊な世界と云える。この特殊性を正しく理解することなく、幼少時からアスリートの道を進んで、いつのまにかスポーツの美名の下にモラルレベルからはるかに低いルールを正邪の境として転落してしまうケースは決して少なくない。スポーツが少年の人格を歪める傾向の一因が、ハードルを下げたルール感覚が社会で通用すると思込む癖が身につけてしまうことにあるようだ。扱て、現行のヨット競技規則は、筆者が初めてインカレに出場（1955）した時の規則（IYRU）から数えて 15 版の改訂となっている。精査した訳ではないが、大雑把にみて条項数



指導者講習会で講義する安井副会長

で 1.5～2.0 倍、字数にして 2.5～3.0 倍になっていて、計算上はオリンピック開催の度に平均 4～6% ずつ増えてきたことになる。「法は三章を以って足る」（傷つけるな、盗むな、騙すな）のギリシャの哲人の言があるように、国民の倫理観が高ければ法律は簡素なもので済むはずだ。しかし、現実には悪貨は良貨を駆逐するだけでなく、制度や科学技術の進歩が社会に新しい問題を生み続けている。ヨットの競技規則が複雑化したり、罰則の変更を以って一概にセーラーの倫理観の低下とは断じたくない。元来、ヨットの競技規則は、その骨子を一般船舶の国際海上衝突予防法に置いている。例えば障害物やマークなどは岩礁や浅瀬、或いは頑丈な構造物（浮標、灯台など）であったから、接触すれば船は大破して沈没の危険を想定していた。ヨットレースのマーク回航が接触即失格だったのはその意味で、小澤先生も「マークは機雷と考えなさい。接触即爆沈だよ」ときわどい回航動作を得意がった子供を叱っておられた。現在のゴム製浮体マークは安全であるから、接触しても Sudden Death とはならず、自主的罰行為で救済されるようになった。ルールには航路権の三原則のように

不変のものがある一方で、上例の如く正が不正になったり、不正が正になるものがあるから、常に「とりあえず」ぐらいで教えるほうが無難であろう。それを永遠の真理の如く口角泡を飛ばして自己流の解釈に固執するコーチを見たことがあるが、改訂されたらどう説明するのか心配したものである。特に子供の場合は、ルールを余りリジッドに教えると、変更された時にかえってルールを軽視することに繋がるから要注意であろう。ところで筆者は 30 年ほど前にルール改訂の英訳作業に関わったことがある。勤務先が近かった縁で平田克己氏（故人・東大 O B）に乞われてのことだった。数回の編集委員会にも参加したが、種田一郎氏（故人・東大 O B）、石井正行氏（故人・慶大 O B）などルール研究の権威の錚々たるメンバーの激論を傍聴させて貰ったものである。この時に筆者が感じたことは、第一にルールの解釈は立場を入れ替えて正反対の主張が可能なこと。第二に洋上に於ける千変万化の環境条件を表現出来ないこと。第三に英語や仏語がもつ微妙なニュアンスを和訳で正しく伝えているか怪しいこと等々、ルールのもつ頼り無さであった。このルールは、大型クルーザーから

小型ディンギーまでのあらゆるレースが対象であり、このルールの文章も成人ですら難解な部分が少なくない。野球やサッカーのようなポピュラーなスポーツでは、プロ / アマ、大学から少年まで、競技規則は別に存在しているようだが、ヨットにはジュニア向けのルールは存在していない。筆者はかつてニュージーランドのジュニアチームのコーチにこの点を質問したことがあるが、彼等の国内レガッタでは国際規則の条項の部分適用が通例とのことだった。筆者の考えでも、現在の 90 近い条項のうち初級までは 15、中級でも 30 ぐらいの条項を教えるぐらいでレースは可能と思っている。どんなスポーツや芸事でも、決まりや理屈はやる気が殺がれ、先ず身体を動かし、見よう見真似で道具を動かせるようにするのが、その道が続ける有力な引力になる。セーリング歴二年未満では最小限のルールに絞って、操艇時間を増やすことに専念させ、技術向上を実感させることがジュニア人口の確保に不可欠と考えている。

- （以下次号、次々号に掲載）
- 6. 厄介なプロテスト制度
  - 7. 公認指導員制度について
  - 8. 小論文の中の気懸りな言葉
  - 9. スポーツマンシップとシーマンシップ
  - 10. 指導者・コーチに期待すること
  - 11. クラブの成立ちと指導者の関係
  - 12. まとめ



# JJYU NOTICE BOARD

## ■JJYUの平成28年度事業計画書から活動計画(抜粋)です。

### □競技会および普及活動

#### ●第4回ジュニアヨットクラブジャンボリー

日程：5月3日(火・祝)～5日(木・祝)

会場：静岡県立三ヶ日青年の家

#### ●国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2016(若洲大会)

日程：8月5日(金)～7日(日)

会場：東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所

共催団体：東京都ヨット連盟

#### ●第26回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ

(ミキハウスカップ東京2016)

日程：9月4日(日)

会場：東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所

共催団体：東京都ヨット連盟

#### ●第5回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ

(ミキハウスカップ大阪2016)

日程：10月15日(土)～16日(日)

会場：大阪北港マリーナ

### □ジュニアヨットクラブ選手の海外派遣

●日本ジュニアヨットクラブ競技会2016の特別賞3クラブの選手は、2月1日～8日のロイヤルパースヨットクラブ主催の「RPYC Dinghy Mini Series 2017」のレース参加を含む研修に派遣する。

●ミキハウスカップ東京と大阪の特別賞2クラブの選手は、3月末～4月初めのシンガポール研修に派遣する。



表彰式に参加された受賞者の方々（最前列で表彰状をお持ちの方、左から二村種義氏の奥様、三澤博敬氏、後藤憲二氏

### □その他

指導者講習会、安全講習会の開催や公認指導員制度の運用、連盟役員によるクラブへの出張講習等、クラブ運営指導や指導者の養成を行います。また、ホームページ、広報誌「ユースセーリング」、「JJYU通信」により、各クラブその他の皆さんとのコミュニケーションを図ります。

### ■連盟会長表彰

平成27年度より施行することとした連盟会長表彰制度に基づき、当連盟の定款に定める目的及び事業に照らしその業績が顕著な下記5名の方々を選出し、平成27年12月19日に横浜聘珍楼にて表彰式を執行了しました。

故・二村種義氏（74歳 なごやジュニアヨットクラブ代表）

三澤博敬氏（81歳 B & G 新潟海洋クラブ元代表）

長谷川克也氏（76歳 函館ジュニアヨットクラブ元代表）

多田正暁氏（69歳 石川県セーリング連盟所属）

後藤憲二氏（68歳 酒田ジュニアヨットクラブ元代表）

## Youth Sailing No.84

●レイアウトデザイン 有限会社 オフィスルナ

●印刷・製本 有限会社 サムネク

●編集委員会 連絡先

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

ユースセーリング編集委員長 岸野寛 副委員長 葛西信一

〒251-0033

神奈川県藤沢市片瀬山5-26-1

TEL：090-9002-6913

e-mail：kishino.h@gmail.com



# SANYO

ココロも打つ、楽しさを。



株式会社 三洋物産 株式会社 三洋販売

<http://www.sanyobussan.co.jp/>

JJYUの広報を担当している岸野です。ようやく84号を発行することができました。本号では、宮古での国際交流レースと、近年始まった取り組みである海外セーリング研修やセーリングジャンボリー、などを紹介しています。

本号より、JJYU委員の葛西信一さんが編集委員会に参加してくれることになりました。新しい力を得て、年度内には次号を発行する予定です。



